

JOMA通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報

No. 85号

光のあるうちに主のみわざを

高田聖書教会牧師
南米宣教会理事
JOMA2020年度会長 塚田 献



「わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちに行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。」
ヨハネの福音書9章4節 (新改訳聖書2017)

2020年度のJOMAの総会は、コロナ禍で通常の4月に行うことが出来ず、6月にリモートによる開催となりました。すべてが初めての経験でしたが、旧役員と新役員との話し合いを重ね、大間主事が様々な準備をしてくださり、セミナーも含めて開催することができたのは、主のあわれみと導きがあつたことと思っています。各宣教団体の代表者の方々のご協力とまたご理解に感謝しています。JOMAの今年度の活動においても、先の見通せない中にありますが、主の導きを求めつつ、主にお委ねしていきたいと思ひます。今回の総会で出された意見の中からも、世界宣教の働きに困難な状況が分かち合われました。宣教師やその家族のケアの問題、派遣教会などによる支援会の継続、宣教地における危機管理等、様々な課題があります。さらに世界規模で様々な活動が制限を余儀なくされ、世界各地に遣わされている宣教師の働きに及んでいる影響は小さなものではありません。

近年は科学技術の進歩や文明の発展の恩恵も受けて、世界宣教の拡大がなされてきました。世界各国への自由な往来、世界中で瞬時に情報を共有することが出来る世界、働きを継続していくための経済的発展など。これらのものが働きに寄与してきたのは間違いありません。しかし昨今の世界情勢を見ると、備えられてきたそのような環境が盤石なものではなく、一瞬で壊されかねないものであり、改めて何によって世界宣教のわざが継続されてきたのかを考えさせられます。

戦後、日本の教会から遣わされていった初期の宣教師の証しを思い起こすと、今あるものが全くなかった中で、未開地や異文化に遣わされて行きました。整えられた環境もない中で、主のご計画と「わたしは彼らを世に遣わしました」(ヨハネ17:18)との主の召しに従ったことのゆえになされてきた働きでした。宣教の働きにおいて、私たちにとっては経験したことがないことであっても、二千年以上の期間、様々な困難に直面しながらも続けられ、その信仰が人間の歴史の歩みの中で受け継がれてきました。迫害、飢餓や病気、差別、暴力、戦争などの試みの中で、この信仰は確かな希望を私たちにもたらし、信じるに値するものなのか、果たして風が吹けば飛んで消えてしまうような籾殻のようなものなのか、ふるいにかけられてきました。しかしあのナザレのイエスの十字架と復活こそが、私たちの希望のすべてであるということが確かに証されてきているのです。そして困難の中でこそ、このわざが主のわざであることが明らかにされていきます。宣教のわざは、主が私たちに遣わしてくださってこそなし得る働きであることを覚えつつ、夜が来る前に私たちに遣わされた方のわざをこれからも行っていきたいと思ひます。各宣教団体、遣わされている宣教師の働きを覚えてさらに祈ってまいりましょう。

東洋ローア・キリスト 伝道教会の活動状況

東洋ローア・キリスト伝道教会
副理事長 橋本 覚

東洋ローア・キリスト伝道教会は、1952年11月にアメリカから来日したエダ・マブル・コリエル(母 写真左)、エミ・エダ・コリエル(娘 写真右)の両宣教師によって始められた、ろうあ者のためのキリスト教会です。「東洋ローア」という名前には、日本のろうあ者に伝道するだけでなく、ここからアジアのろうあ者に宣教するという願いが込められています。



母宣教師は1990年1月に99歳で、娘宣教師は2018年12月に96歳で、それぞれ天に召されました。創立から約70年が過ぎ、当時を知る人が少なくなりましたが、日本およびアジアのろうあ者伝道の働きは、新しい世代に受けつがれています。現在、北は北海道、南は沖縄まで38カ所の伝道所に1028名の会員、22名の教職者がいます。また、健聴者3名を含む11名が、本部職員としてこの働きを支えています。

●アジアのろう者への宣教

初めての海外宣教は1956年、当時は外国であった沖縄でした。1961年にはコリエル母娘宣教師と梅崎勲牧師が宣教師団としてフィリピンに派遣され、梅崎師はフィリピンで3年間宣教師として奉仕しました。フィリピンは当初の宣教目的の地だったこともあり、コリエル両宣教師は1966年に移住。この時、沖縄の安森ハル姉と山内佐代子姉も宣教奉仕者として加わり、山内姉は2002年まで、安森姉は2013年まで、ラグーナろう学校を中心に奉仕をしました。

その他の宣教地では、1977年に台湾へ白井完二宣教師が遣わされ、その後、小野寺義尚宣教師が台湾、香港に遣わされました。

宣教師の派遣の他、1986年には「アジアのろうあ者をキリストへ」をモットーに、第1回アジアろうあ伝道大会を日本で開催し、7ヵ国から279名が参加しました。この大会は、その後も数年毎に開催が続けられ、2017年には第14回大会が香港で開催されました。これまでの大会開催地は、台湾、香港、フィリピン、韓国、シンガポール、中国、マレーシアで、アジア各地にわたっています。

私たちのゴールは、アジアのろうあ者にイエス・キリストの福音を伝えること

"Our goal tells the Gospel of Jesus Christ to an Asian deaf-mute"



エミ・エダ・コリエル宣教師

●東洋ローア・キリスト聖書学院

教職者は、多い時は30名を超えましたが、少子高齢化の影響は東洋ローア・キリスト伝道教会にもあり、現在は22名です。聖書学院への入学希望者がゼロという年が続いたため、在校生がいなくなり休校した時期もありました。幸い、現在は1名の学生が3年次に在籍しています。

現在の第4期 教会本部会堂 (2010年9月18日)



●老人ホームの建設

福祉関係に詳しい健聴者の協力者が旭川伝道所に与えられ、2010年に委員会を設立。旭川介護事業部を開設し、ホームヘルプなどの在宅高齢者の支援から始めました。この働きのために、旭川伝道所の会員がホームヘルパーの資格を取得しました。2012年12月には高齢者共同住宅「とわの鐘の家」を開所し、現在6名のろうあクリスチャンが生活しています。



本部職員の皆様

●神の栄光を現すため

「ろうあ」という障害によって闇の中を歩んでいた私たちに、コリエル母娘宣教師は希望と喜びを与えてくださいました。「なぜ、障害を持って生まれたのか」と悩みながら生きてきましたが、神の栄光を現すためであることを知りました。イエス様は、生まれた時から目の見えない人について弟子たちから尋ねられ、「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです」(ヨハネ9:3)と答えられました。これは盲人だけではなく、ろうあ者も同じことです。神に感謝してやみません。

日本バプテスト 教会連合の活動

日本バプテスト教会連合
世界宣教担当理事 **丸山悟司**

日本バプテスト教会連合では、現在、タイのチェンマイとネパールのバクタプルに宣教師を派遣しています。チェンマイの福間庸平宣教師は、2009年から現地での働きを続けており、主にスポーツミニストリーに携わり、子どもたちへのサッカー教室、小学校や少年院の訪問などを手掛けています。しかし、今年に入って春先からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、大幅にミニストリーは制限され、チェンマイもロックダウンの規制がかかって子どもたちとの交流も途絶えてしまいました。

そのような状況下にあっても、何とか制約の中で子どもたちをできる限り訪問し、LINEでコンタクトを取るなど、コミュニケーションを継続するための手立てを講じました。また、オンラインによるトレーニング・セッションも提供しました。7月からロックダウンも解け、サッカー教室を再開することができましたが、果たして子どもたちと4か月のブランクを乗り越えてふつうにコミュニケーションが図れるか懸念がありました。しかし、思いのほか子どもたちは順応力が高く、教室の再開を待ちわびていた彼らとの心の交流はすぐに取り戻せました。



サッカー教室の子供たちと福間宣教師(右)

スポーツミニストリーは、もちろんスポーツをすること自体が最終ゴールではなく、スポーツを通して子どもたちの心に福音の種を蒔き、キリストの弟子となるべく育てることに究極的な目的があります。福間宣教師はこれまでに、少年院の子どもたちも含めて、およそ200名の子どもたちと関わってきましたが、そのうち50名ほどが、現在、礼拝に連なっています。それまでは教会には行ったことのない子どもたちです。50名のうち10名ほどが、信仰の告白とともに洗礼に導かれています。

自粛期間中は、タイにおいてもインターネットでの礼拝が多くの教会で導入されたようですが、なにぶん経済的にも厳しい家庭の子どもたちがサッカー教室にも多く、そのような家庭の子どもたちは、なかなかインターネットでの礼拝参加も難しく、対応に苦慮しましたが、個人的にLINEなどでコンタクトを取るなどしてフォローしました。教会堂での礼拝が再開された折には、もとより礼拝に集っていた子どもたちは比較的順調に教会に戻って来たようです。ただ、小学校や少年院での活動の再開は少し先になりそうです。



子供たちに講義する福間宣教師

ネパールのバクタプルに昨年の11月に赴いたりチェン・カルマチャリア宣教師(候補)は、家族の反対を乗り越えて信仰を貫き、日本で神学教育を受け、現地に派遣されて行きました。バクタプルは仏教、ヒンズー教が強く、教会の無い地でのゼロからの開拓です。新型コロナウイルス感染症の影響で、やはりロックダウンが続き、許可された時間以外に街をふらついていると警察に連行されて、延々と2時間ほど説教を食らうといった厳しい状況です。群れが形成されつつある教会のメンバーの中にも仕事に行けずに経済的に難儀をきわめる人たちもいます。

そのような中で教会としては、女性による連鎖祈禱、男性のヨシュア記の学び、青年を中心とした週に一度の断食祈禱など、適時、オンラインを利用して前向きに活動を展開しています。



ロックダウンされたバクタプルの街を取り締まる警官隊

- ◆ OMFインターナショナル 日本委員会
 - * コロナ禍ですが、オンラインを使って(または併用して)の宣教祈禱会があちらこちらで祝福されていることを感謝。休会しているところもありますが、宣教のために祈る人がさらに起こされるように。
 - * 坂西信悟師がOMFに受け入れられたことを感謝。現在、教会訪問中ですが、2月にシンガポール国際センターでのオリエンテーションを受け、任地(メコンフィールド)に向かう予定です。今後の歩みの上に主の助けと導きがあるように。
 - * コロナ禍にあって、宣教地への帰任のタイミングを待っている人、また、一時帰国のタイミングを待っている人などに主の導きと平安があるように。
 - * 定期刊行物の宣教ニュース刷新のために。主が喜ばれ、宣教の啓発、動員のために用いられるものを発行することができるように。

- ◆ OM日本
 - * OM日本の願いは、最も福音が伝えられていない国や地域に宣教師を派遣することです。さらに多くの日本人が1-2年の宣教プログラム(ロゴスホープ等)に参加できますよう、又、長期宣教に導かれる人が起こされますように。
 - * 日本の地域教会で奉仕するOM外国人宣教師達の存在が、日本の教会の国内、国外宣教の働きに良い影響力となるように。
 - * 海外の日本人長期宣教師たちが、活動地でのコロナ禍において主からの知恵が与えられ、困難な状況の中も主が彼らを光として用いて下さいますように。

- ◆ アンテオケ宣教会
 - * 現在日本に帰国中で、宣教地に帰任の予定がコロナで閉じられてしまっている宣教師が複数人います。主の最善の時に、再び戻ることができますように。
 - * 日本に短期帰国予定が、コロナで帰れない、帰ったとしても隔離や証明書の問題で、帰国を断念せざるを得ない宣教師も複数人います。主の最善がなされますように。
 - * 厳しい状況の中、宣教活動を任地で継続している複数の宣教師たちのために。主の励ましと守りが与えられますように。

- ◆ イムヌエール綜合伝道団 世界宣教局
 - * コロナのために帰国していた二人の医療宣教師が、9月にザンビアに再赴任をします。コロナから守られ、医療を通して福音を伝えることができるように。
 - * 香港では現在2名までの礼拝の形態が許可されています。インマヌエル香港キリスト教会の邦人礼拝が守られるように。

- ◆ キリスト兄弟団
 - * 新型コロナウイルス感染症のため、本年予定していた教団内での海外宣教セミナー(在日異邦人、特にイスラム教徒への宣教セミナー)を中止しました。今後の世界宣教への啓蒙、宣教師発掘などの在り方を模索中です。良き導きが与えられるようにお祈りください。

- ◆ 在欧日本人宣教会
 - * ドイツのミュンヘンに派遣されている安藤廣之、里佳子先生の活動と生活が守られますようにお祈りください。
 - * 今夏に予定されていたヨーロッパキリスト者の集いは中止となりました。来年の夏に予定されているフランスでのキリスト者の集いの企画に主のみこころがなされますように。

- ◆ チャーチ・オブ・ゴッド 国外宣教部
 - * メキシコでは新型コロナによる死者も多く、教会関係者でも感染例があります。阿部宣教師、山田若葉姉と教会、学校が守られるように。
 - * 学校はオンラインで秋学期が始まりますが、メキシコの経済的打撃は大きく授業料を払えない家庭も出てきています。学校経営が支えられるように。
 - * 阿部宣教師は10月に一時帰国の予定です。コロナ禍での帰国とその後の歩みが守られるように。

◆ 東京フリーメソジスト教団 宣教委員会

* 私たちの団体ではCOVID19感染の拡大が続くブラジルに矢花祈・来子宣教師ファミリーを派遣しています。全ての安全が確保され続け、工夫をもって現地での活動が続けられるように。また、日本でも関係諸教会において、オンラインでの巡回報告を行う予定です。豊かな交わりのためと知恵と準備が備えられ、また世界宣教の重荷を共に担う兄弟が多く起こされますように。

◆ 東洋ローア・キリスト伝道教会海外宣教委員会

* 2020年度から2年間理事長足立幸典師、副理事長橋本覚師、書記理事田中久祥師、他の理事6名の働きのために。
 * 教職者22名と全国各伝道所38ヶ所(担任教職者不在の伝道所は16ヶ所)のために。
 * 旭川の老人ホーム施設建設(第2のとわの鐘の家)のための土地購入と建物の資金が与えられるように。
 * 本部事務局で主のために働く事務局長椿野僚子師と事務主事綿貫姉と他の職員たち(11名)の働きと健康のために。
 * 本部事務局で募集している炊事職員が与えられるように。

◆ 南米宣教会

* ブラジルマナウス市で運営されている南米宣教会アマゾナスの社会福祉事業による地域支援(職業訓練)の働きが用いられますように。
 * ジョセフィーナ学校(通称日伯学校)のハイブリッド授業(ZOOMと教室)が用いられ、子供の授業への祝福とその両親への信頼の為に。また経済が守られ、支えられますように。
 * 新しい宣教師が起こされますように。

◆ 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部

* 新たな宣教師候補者が起こされてきますように。
 * 現在国内待機中の2組の宣教師の状況が整い、出国することができますように。
 * 丸山陽子宣教師(台湾原住民伝道)の働きが祝福されますように。

JOMA正会員(加盟団体)募集と 協力会員(個人)としてご参加のお願い

JOMAでは加盟団体を募集しています。世界宣教をおこなっている宣教団体、教派団体が、共に主に在る戦いを勝ち取るために、より強固なネットワークの構築が望まれます。もし未加入の団体をご存じの場合は、積極的な入会をお誘い下さい。

また、さらに充実したネットワークの構築のため、JOMA規約第5条に基づき、協力会員(個人:年会費12,000円)も募集しております。すでに、何名かの方からご参加のお申し出を頂戴しており、感謝です。皆様ご自身、また、周囲の方で、世界宣教に重荷を持つ個人の方の積極的な入会をお誘い申し上げます。入会をご検討の方は、JOMA事務局まで、お問い合わせ下さい。(e-Mail: office@joma.jp)

(参考)JOMA規約 第5条の2: 協力会員とは、個人において世界宣教に重荷を持ち、JOMAの活動に協力及び支援をする者とする。総会にはオブザーバーとして参加し、議決権、選挙権および被選挙権を持たないものとする。

今回から、総会時の提案により「事務局主事献金」も新たに設けました。こちらへ指定のお献げも感謝です。

◆お詫びと訂正◆

先号とともにお届けしました「JOMA派遣宣教師一覧 2020」の南米宣教会: マナウスの三浦洋平氏の家族欄に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

誤: ナオミ(娘)、希和(のあ・娘)

↓

正: **なおみ**(娘)、希和(のあ・息子)

アンテオケ宣教会オンラインセミナー

「共に生きる ～ ニューノーマル時代に変化するコミュニケーション」

日時: 9月22日(火) セミナー 10時～ 分科会 14時～ 宣教大会 19時半～

◆セミナー: 10時～12時 「アフガンに捧げたDr.中村哲の生きざま」
ペンチャール会PMS室 藤田千代子氏

◆分科会: 14時～16時 5つの分科会: 参加者が一つを選んで入っていただくようになります。

- ①この日本の片隅に今、誰がいる? どう関わる? 三橋恵理哉師、松崎ひかり師
- ②東アジア宣教 TICF 佐藤浩師
- ③欧州邦人宣教 石川秀和師、井野葉由美師
- ④ポストコロナ・世界ビジネス宣教ネットワーク 森敏師
- ⑤未伝部族への接近と伝道 A氏

お申し込みは以下の↓
QRコードからお願いします



◆宣教大会: 夜19時半～21時 「コロナ時代に前進する神のみわざ」B氏

セミナーについてのお問い合わせ等は事務局まで
jimukyoku1977@gmail.com

※ 開催日が直近ですのでご注意ください

予告

JOMA 宣教セミナー 2020

日時: 2021年 2月23日(火) 10:00～17:30

会場: 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

中央聖書神学校 (予定) ※コロナ禍の状況によってはオンライン開催となります。



プログラム(予定): I部 交流懇談会(昼食持参) 全体交流・テーマ毎懇談
II部 宣教セミナー (候補テーマ:「家族ケア」「現地危機管理」)

※今回のセミナーは会員団体と関係者、および、特別に推薦された方のみがご出席いただけます。

JOMA活動報告

「JOMAセミナー」レポート テーマ『セルフケアとうつ』

JOMAではコロナ禍で2カ月遅れた定期総会日の午前、「メンバーケア・ジャパン」との共催で、Zoom配信によるウェビナー(Webセミナー)を開催しました。

日時: 2020年6月16日(火) 11:00～12:30

講師: Dr. Andy Meeko (アンディ 美湖) 宣教師

Andy Meeko師は2代目宣教師。東京で高校を卒業後、ハワイ大学、ウェスタン神学校を卒業。ジョージフォックス神学校で、高いストレスを抱える家族に対するミニストリーで博士号を取得。家族、社会、霊的分野で執筆、現在のフォーカスは、創造的伝道とうつの予防に取り組んでいる。

参加者: 約70名 (JOMA会員団体関係者だけではなく、様々な教団・団体より参加いただきました)

内容: 今回のセミナーは「Be proactive. (先を見越す)」「Specialize. (スペシャリストになる)」「Find community. (コミュニティを見つける)」「Stay fit. (健康状態を維持する)」という4点をアウトラインに、「セルフケアとうつ」についてお話いただきました。

<参加者の声>

- ◆世界宣教の情勢は(場所にもよりますが)大きな危険を伴い、働き人は精神的にも肉体的にも大きな負担・ダメージを受けています。それを知った上で、宣教師とその家族をケアする必要があります。その意味で、今回のセミナーテーマはとて有意義でした。
- ◆宣教師のケアはとて重要で、今回、このテーマでセミナーを開いて頂き感謝。今後も、メンバーケアについて継続的・重点的に意識をもっていきたい。

◆事務局より◆

今号より、毎年1回は各加盟団体の祈禱課題が掲載されるように、ページ数に合わせ、秋号には11団体、春号には6団体の課題を掲載させていただくように致しました。互いに祈り合い、助け合うJOMAでありたいと願います。

